



致生川



特別
子 12
3643
16(8)



たふ都代山乃胡ぼきづくぬあまふ
それ本播山伏見乃里も遠く野ぬ鳥
羽た細道うらさく渡乃つこ播きま
くもづもあや神まはるば播き
あまに急りけり
よ、是のちやハ播乃里の急て心静よ
社まやのちまらあ
急の程

乃いけねとあつ川波よ月も
あくや秋き水
神たのちまらあや神まはるば播き
人を教へ吾を貴し恵をりる年
まのゆる清代乃たああり
ゆへふまねのちあく萬徳をねさる
あまの恵もあまの恵もあまの恵も
積音

大生

大生

おとさきあまの魚のつぎに秋と入る
所へ撫子綱ふもきぬ神ぬら
をありあり甲丸今にありあはる事
うれおほき所放りゆその御謂多
行りそ異國長治乃御時む
くた敵とてほ給ひしきま幾生これ
吾根乃その為ふ放生れ御然とた

一、甲丸謂をきけはる程やうとく
生を放つゆはら所きぬ御
御説久此河の水を濁り神
さくれ甲丸ちりひき清き石清るの
もゑのつぎに甲丸岸よぬを
水桶ふ青水は流るるを
しひひくもひも周下神知て

女

五

甲 人佛不二乃御心まぐ正直なり
へおやうりて 名 人の國より我
他人より我人と稱りて御心
まぐけふ有難や神まぐけふ
まぐけふ有難や神まぐけふ
新まてあふり行教まぐけふ乃御心
乃袖子陰うのたの都代まぐけふ南

上テ 神徳ちなるや男山よ一松
益法成すは御心まぐけふ
鄙乃國の民乃海をまぐけふ
あささるる代のもぐけふ道成つ
乃山ふもむ月たひりまぐけふの衣平
まぐけふ給りてなや宗廟た
あささるる代のもぐけふ道成つ

あささるる代のもぐけふ道成つ

放主

七

だろく舞をまひま^北
乃私ををあき^ア喜^下入^下
春の霞乃わをあき^ア喜^キ舞^下
まのよ^北 柳夏^下のりてい^ア
舞をまひ^ア鈴^下 虹^下も^ア水^ア
み^下め^下のり^下のり^下のり^下のり^下
樂^下舞^下のり^下のり^下のり^下のり^下

交^ア風^下乃^下言^下に^下花^下ろ^下く^下いた^下る^下む^下ま^下ひ^下
乃拍子^アぞ^下 秋^下の^下目^下み^下の^下り^下
乃^下の^下も^下秋^下の^下樂^下を^下舞^下の^下り^下日^下の^下
色^下移^下る^下雪^下の^下夜^下の^下り^下の^下神^下を^下
ひ^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下
人^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下
乃^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下の^下り^下

東京觀世清孝 梅若 實 京都斤山晋 三 浅井喜次郎 林 喜左門 茵 久左門 浅野繁之助 林田喜代造 武田藤馬 藤木保 列 大江信之助 井上勝太郎 立花傳 三 三宅作十郎 奥田彦登門 馬淵太右門	大改生一丸共南 大西濶一郎 橋岡忠三郎 岡田泰造 新西市共南 恒岡 德	諸國 東田彌崎 松本善助 越後高田清庄 吉田作平 伊豆松濱玉井新次郎 東海三條村上勘兵衛 四條草田大谷勘兵衛 三條寺田杉本甚助 日川京町福井源次郎 五條高倉澤田友五郎 花田高澤永田調兵衛 寺田素藤井作兵衛 日俣小路山田茂助 日佛小路北川甚七 古川前澤田吉右門
---	--	--

觀世流うたの本賣弘廣告

右謠本八段來出本長兵衛所有如元治元年七月京都大火之初土蔵に燒來依り美
 保版に殘燒失致し山幸版本彫刻可致し如不美意所彫刻難出來每據我亦方引
 更存在の共後長兵衛死去山本絶在相成其有觀世流元新設預出の如觀世
 家元亦右謠本示來數十年の星和と種不況に致し増補増加印刷附其の如
 悲し明治十一年某世親世流元授合際と相成版本彫刻可致し有付同年以來新版彫刻仕
 於私店販賣の右謠本其書名前出一及し上何卒用向の仰下及備奉致上南

一大本 壹番綴 壹冊二分 代價金

右法君の法好所護愛仕尚又向外搦本向不足有之如以重次第是本仕在右法
 用向備奉致上南

明治十六年十月 觀世流謠本根元 山本長兵衛後傳 檜常介

